**（紙芝居）**

① このお話は、むかしの中国の学者『孟子』の子ども時代のお話です。孟子は、今から、二千三百年位前活躍した有名な学者です。どのような子ども時代を過ごしたのでしょうか。

**孟子**「ああ、おもしろかったな。みんなと遊んで、お腹がすいた。早く家に帰ろう。」

近くの友達と遊び、お腹がすいたので、急いで家に帰ってきました。

隣の家の近くまで来た時、いのししの肉を煮ているような、おいしそうなにおいがしました。おじさんとおばさんが、何かの肉を煮ているのです。

**孟子**「おじさん、おばさん。こんにちは。」

**おばさん**「はい、こんにちは。孟ちゃん、速く走れるようになったね。」

**孟子**「はい。友達と練習しているから、速くなったの。」

おじさんとおばさんは、にっこり笑ってくれました。孟子は、「何の肉だろう」と考えながら家まで走って帰りました。

② 家に帰った孟子は、さっそくお母さんに言いました。

**孟子**「お母さん、ただいま。今、隣の家の庭で、大きな鍋から、いのししの肉を煮ているようなおいしいにおいがしましたよ。お客様でもあるのかな。大きな鍋のお肉は、どうするのだろう。」

お母さんは、からかい半分に冗談を言いました。

**お母さん**「お前にごちそうをするためですよ」

**孟子**「えっ、ほんとうなの。うれしいな。大好きだから、待ち遠しいよ。」

お母さんは、孟子がとても喜びましたので、ドキッとして、「冗談だよ」と言えなくなりました。お母さんはたとえ冗談であっても、子どもにうそをついてしまったことを、反省しました。

**お母さん**「母親は、お腹にいる赤ちゃんにさえ、お腹をなでながら、やさしく声をかけるものなのに。私は何というばかな冗談を言ったのだろう。情けないことをしたわ。」

そこで、孟子には何も言わず、そっと隣の家に行き、いのししの煮物を、お願いして買いました。

**お母さん**「これですよ、ぼうや。今、いただきましたよ。食べてごらん。」

**孟子**「ばんざい。おいしそうだ。お母さん、うれしいな。」

孟子は、飛び上がって喜びました。

**お母さん**「ぼうや。せっかくのごちそうだから、たくさん、おたべなさい。」

お母さんは、孟子にすすめて、うそをついたのではないことを、示しました。

③ 数年が過ぎました。孟子は成長し、しっかりしてきました。お母さんは、遠く離れた学問所に優れた先生がおられることを聞きました。そこで、その学問所で勉強させることにしました。

**お母さん**「これから、ここの先生の所で、しっかりと学問の修行をしなさい。母と別れるのはつらいと思いますが、修行が終わるまで、一心にがんばりなさいね。」

**孟子**「はい。お母さん、分かりました。お母さんも、お体を大切にしてください。」

**お母さん**「あなたは健康に気をつけて、学問に打ち込みなさい。分かりましたか。」

**孟子**「はい、分かりました。お約束します。一心にがんばります。お母さん、ではここでお別れします。行ってまいります。」

**お母さん**「行ってらっしゃい。ここで、あなたを見送りますよ。母も、がんばりますからね。」

孟子は、元気よく学問所に入っていきました。

④ 孟子が学問所に行ってから、何年かが過ぎました。お母さんは、孟子の学費や生活費を送るため、一生懸命働きました。学問所で勉強するには、たくさんのお金がかかるからです。お母さんは、はた織り機で、美しい絹の布を織る仕事に励んでいました。

**お母さん**「息子は、毎日学問にがんばっていることでしょう。優れた先生に出会え、多くの学問仲間もで